

青山学院大学  
ジェロントロジー研究所年報

第1巻

2018年度

## 目次

巻頭言	3
アウトリーチ活動	4
平田 普三	5
井上 孝	8
日置 俊次	11
小菌 康範	13
塩澤 友規	14
竹下 啓	16
米山 聡	18
栗原 陽介	20
ロペズ ギョーム	21
佐野 智子	24
長田 久雄	26
木村 康一	28
井上 希	29
朝倉 匠子	31

## 巻頭言

ジェロントロジーとはロシアの微生物学者イリヤ・メチニコフ（1908年ノーベル生理学医学賞）が提唱した老年学を意味する言葉ですが、近年は超高齢社会に資する学際研究分野として注目を集めています。超高齢社会に資する学問とは何でしょうか。加齢現象を研究する医学・歯学・薬学・生物学などの生命科学、高齢者の生活の質を高める情報科学・電気工学・機械工学・建築学などの応用科学、高齢者を活かす法学・政治学・経済学・経営学・社会学・教育学などの社会科学、老いに注目した哲学・宗教学・人類学・歴史学・地理学・文学・心理学・芸術などの人文学の全てが超高齢社会に資する学問といえます。超高齢社会への道を突き進む日本において、だれもが長寿をありがたく思い、若者と高齢者が互いを補完して成立する健康長寿社会の実現は喫緊の課題であり、そのためには各学問をたこつば的に発展させるのではなく、学問領域の境界を超えたジェロントロジーが必要となります。

青山学院大学は三木義一学長のもと、学長イニシアティブプロジェクトとしてジェロントロジー研究所を2018年4月に設立しました。本研究所はジェロントロジーという観点から学内の生命科学、応用科学、社会科学、人文学を横断する学際研究を活性化し、さらに学外のジェロントロジー研究グループとも連携を深めることで新しいジェロントロジーを創造し、イノベーションや文化の発信を目指しています。本年度は各研究員の個別研究や共同研究を発展させるとともに、開設記念のキックオフシンポジウムと2回の講演会を開催しました。これらのアウトリーチで来場者からの多くの反響を得て、あらためてジェロントロジーの重要性を認識するに至りました。青山学院大学ジェロントロジー研究所の今後のさらなる飛躍を祈念します。

2019年3月

所長 平田 普三

## アウトリーチ活動

開設記念キックオフシンポジウム「世界に誇る豊かな長寿国ニッポンを築く」

日時：2018年9月23日（日・祝）14:00-16:00

場所：本多記念国際会議場（青山キャンパス17号館6階）

講演者：平田普三、ロペズ・ギョーム、三木義一、日置俊次、山野正義（敬称略）

開催報告：<http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/activities/report180923/>

連続講演会第1回「地域包括ケアをどうつくるか -健康長寿・在宅ケア・看取り・絆を考える-

日時：2018年11月18日（日）13:30-15:30

場所：総研ビル12階大会議（青山キャンパス総研ビル12階）

講演者：鎌田實氏

開催報告：<http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/activities/report181118/>

連続講演会第2回「百寿者からスーパーセンテナリアンへ -幸せな健康長寿のモデルを求めて-

日時：2018年12月9日（日）14:00-16:00

場所：本多記念国際会議場（青山キャンパス17号館6階）

講演者：広瀬信義氏

開催報告：<http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/activities/report181209/>

## 平田 普三

所属：青山学院大学理工学部・教授

経歴等：[http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf\\_leader/](http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf_leader/)

### 研究成果の概要

熱帯魚ゼブラフィッシュを動物モデルとした老化研究を進めた。老化が進んだ個体では筋肉量が減少することを確認し、その非侵襲定量解析系の構築を進めた。また、運動制御に関わるグリシン作動性シナプス伝達に注目し、グリシン受容体の特性を解析し、ストリキニーネやピクロトキシンといった阻害剤の作用機序を明らかにした。また、サブユニット組成が生物種によって異なることを発見し、これらの成果を論文発表した。さらに、シュプリンガー社から専門書を編集出版した。

### 学術論文

1. Sugihara, M., Morito, D., Ainuki, S., Hirano, Y., Ogino, K., Kitamura, A., Hirata, H. and Nagata, K. (2018) The AAA+ ATPase/ubiquitin ligase mysterin stabilizes cytoplasmic lipid droplets. *J. Cell Biol.* In press.
2. Low, S. E., Ito, D. and Hirata, H. (2018) Characterization of the zebrafish glycine receptor family reveals insights into glycine receptor structure and stoichiometry. *Front. Mol. Neurosci.* 11: 286, 1-15.
3. Ogino, K. and Hirata, H. (2018) Rohon-Beard neurons in zebrafish. *Zebrafish, Medaka, and Other Small Fishes – New Model Animals in Biology, Medicine, and Beyond.* Springer. Edited by Hirata, H. and Iida, A. p59-81.
4. Schaefer, N., Zheng, F., van Brederode, H., Berger, A., Leacock, S., Hirata, H., Paige, C. J., Harvey, R. J. Alzheimer, C. and Villmann, C. (2018) Functional consequence of the postnatal switch from neonatal to mutant adult glycine receptor  $\alpha 1$  subunits in the shaky mouse model of startle disease. *Front. Mol. Neurosci.* 11: 167.

### 招待講演

1. 平田普三。動物の行動変化のメカニズム。タンパク質動態研究所セミナー・第183回細胞生物学セミナー。京都産業大学（京都）。2019年3月13日。（セミナー招待講演）
2. 平田普三。本研究所の目指す明るく豊かな高齢化社会。青山学院大学ジェロントロジー研究所キックオフシンポジウム。本多記念国際会議場（東京）。2018年9月23

- 日。(シンポジウム基調講演)
3. 平田普三。ゼブラフィッシュを用いたカルシウム動態制御と筋疾患の研究。第4回日本筋学会学術集会。川崎医科大学医学部講堂(倉敷)。2018年8月11日。(シンポジウム招待講演)
  4. 平田普三。遺伝子から行動まで-動物が環境に適応するための制御機構。青山学院大学市民大学講座。青山学院大学相模原キャンパス(相模原)。2018年7月7日。(市民公開講座講演)
  5. 平田普三。動物の環境適応の分子メカニズム。影山龍一郎先生内藤記念科学振興賞記念および影山研20周年記念生命科学セミナー。京都ホテルオークラ(京都)。2018年4月7日。(セミナー招待講演)

#### 学会発表

1. 杉本豪、荻野一豊、平田普三。遅筋と速筋を可視化するゼブラフィッシュ系統の作製。日本動物学会関東支部第71回大会。中央大学理工学部後楽園キャンパス。2019年3月9日。
2. 柳田政一郎、荻野一豊、平田普三。ゼブラフィッシュにおける慣れ現象の研究。日本動物学会関東支部第71回大会。中央大学理工学部後楽園キャンパス。2019年3月9日。
3. 上林聖、荻野一豊、平田普三。ゼブラフィッシュ成魚のてんかんモデルの確立。日本動物学会関東支部第71回大会。中央大学理工学部後楽園キャンパス。2019年3月9日。
4. 新井拳史郎、荻野一豊、平田普三。In situ hybridization法によるVIAAT, FA2H, KCC2の発現部位解析。日本動物学会関東支部第71回大会。中央大学理工学部後楽園キャンパス。2019年3月9日。
5. 重光玲於奈、荻野一豊、平田普三。癲癇発作における脳内Ca<sup>2+</sup> imaging。日本動物学会関東支部第71回大会。中央大学理工学部後楽園キャンパス。2019年3月9日。
6. 伊東大至、平田普三。グリシン受容体のピクロトキシンへの作用機序と新阻害薬の探索。第8回日本生物物理学会関東支部会。青山学院大学相模原キャンパス。2019年3月4日。
7. 重光玲於奈、荻野一豊、平田普三。癲癇発作中の脳内活動イメージング。第8回日本生物物理学会関東支部会。青山学院大学相模原キャンパス。2019年3月4日。
8. 荻野一豊、平田普三。CaMKII dependent phosphorylation of gephyrin is the key mechanism to induce glycine receptor clustering promotion and subsequent behavioral desensitization to sound.次世代脳プロジェクト冬のシンポジウム2018。一橋講堂。2018年12月13日。
9. 若松勇真、荻野一豊、平田普三。ゼブラフィッシュ野生型系統間の遊泳能力の差。

- 第41回日本分子生物学会年会年会。パシフィコ横浜。2018年11月30日。
10. 片岡未来、荻野一豊、平田普三。ゼブラフィッシュを用いた老化促進変異体の作製。第41回日本分子生物学会年会年会。パシフィコ横浜。2018年11月28日。
  11. Ogino, K and Hirata, H. CaMKII dependent phosphorylation of gephyrin is the key regulation for glycine receptor clustering promotion and subsequent behavioral desensitization of acoustic startle response. 第41回日本分子生物学会年会年会。パシフィコ横浜。2018年11月28日。
  12. 高坂拓弥、荻野一豊、平田普三。グリシン作動性シナプスはシナプス伝達が起きなくとも形成される。第41回日本分子生物学会年会年会。パシフィコ横浜。2018年11月28日。
  13. 伊東大至、Sean E. Low、平田普三。ゼブラフィッシュのグリシン受容体の特性解析。第91回日本生化学会大会。国立京都国際会館。2018年9月25日。
  14. 有菌幸恵、Sean E. Low、平田普三。L型レクチンVIPLによる電位依存性ナトリウムチャネルNaVの発現制御。第91回日本生化学会大会。国立京都国際会館。2018年9月24日。
  15. Arizono, Y., Low, S. E. and Hirata, H. An ER-resident lectin VIPLa regulates sodium channel transport and touch-evoked escape response. 第24回小型魚類研究会。名古屋大学野依記念国際交流館。2018年8月25日。
  16. Ito, D., Low, S. E. and Hirata, H. Electrophysiological characterization of zebrafish glycine receptor family reveals the molecular basis of picrotoxin resistance and heteromeric stoichiometry. 第24回小型魚類研究会。名古屋大学野依記念国際交流館。2018年8月25日。
  17. Maeta, M., Kataoka, M., Ogino, K. and Hirata, H. Developmental delay and increased cell death in zebrafish polr2d mutants. 第24回小型魚類研究会。名古屋大学野依記念国際交流館。2018年8月25日。
  18. Ogino, K and Hirata, H. CaMKII dependent phosphorylation of gephyrin is the key mechanism to induce glycine receptor clustering promotion and subsequent behavioral desensitization to sound. 第24回小型魚類研究会。名古屋大学野依記念国際交流館。2018年8月25日。
  19. Ogino, K and Hirata, H. CaMKII dependent phosphorylation of gephyrin is molecular switch to induce glycine receptor clustering promotion and behavioral desensitization to sound. 第41回日本神経科学大会。神戸コンベンションセンター。2018年7月27日。

#### 書籍出版

1. Zebrafish, Medaka, and Other Small Fishes – New Model Animals in Biology,

Medicine, and Beyond. Springer. Edited by Hirata, H. and iida, A. ISBN: 9789811318795. 2018年10月25日。

#### 執筆

1. ジェロントロジー研究所キックオフシンポジウム。青山学報 266号、p51。
2. ジェロントロジー研究所開設。青山学報 265号、p58。

#### 委員等

1. ナショナルバイオリソースプロジェクト運営委員長。
2. JBC Editorial Board Member.
3. 第24回小型魚類研究会プログラム委員。

#### 新聞報道

1. 読売新聞：研究最前線 老化の謎 熱帯魚で解明へ 2019年2月28日。
2. 産経新聞：「古い」総合的に研究「ジェロントロジー」紹介：2018年10月17日。

# 井上 孝

所属：青山学院大学経済学部・教授

経歴等：[http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf\\_1/](http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf_1/)

## 研究成果の概要

今年度は、井上自身が開発した「全国小地域別将来人口推計システム」の広範囲にわたる応用研究を行い、内外の学会で積極的に発表するとともにその一部は学術雑誌等に投稿した。また、このシステムの正規版の概要についてはウェブジャーナルでも公表し、人口研究者のみならず地方自治体の人口推計や少子高齢化対策担当者などへの周知を図った。さらに、ジェロントロジーの研究と普及促進に関して、国立社会保障・人口問題研究所の社会保障部門との連携を進めた。

## 学術論文・著書等

1. 2018.3 The reconsideration of the census survival ratio method: focusing on decomposability of net migration. 経済研究, 第 10 号, pp.39-53.
2. 2018.4 「全国小地域別将来人口推計システム」正規版の公開について. E-journal GEO, 第 13 巻, 第 1 号, pp.87-100. (2017 年 12 月 27 日受理, 2018 年 4 月 13 日公開) DOI: <https://doi.org/10.4157/eigeo.13.87>
3. 2018.10 「全国小地域別将来人口推計システム」のデータからみる日本の人口減少と少子高齢化. エストレーラ, 第 295 号, pp.2-7. (井上希・片山梨奈との共著)
4. 2018.10 「全国小地域別将来人口推計システム」のデータによる三大都市圏の距離帯別推計. エストレーラ, 第 295 号, pp.8-13. (小松真治との共著)
5. 2018.10 「全国小地域別将来人口推計システム」のデータによる標高・傾斜度別推計. エストレーラ, 第 295 号, pp.14-19. (井上希との共著)
6. 2018.10 「全国小地域別将来人口推計システム」のデータを用いた都市・農村別推計. 統計 (日本統計協会), 第 69 巻, 第 10 号, pp.49-52.
7. 2018.11 日本人口学会編『人口学事典』丸善出版, 800 ページ. (編集委員として参画, 11 項目執筆)

## シンポジウム・講演・研究集会等

1. 2018.6.16 「全国小地域別将来人口推計システム」を用いた無居住化リスクの検証. 2018年度地理空間学会 駒澤大学深沢キャンパス. (井上希との共同発表)
2. 2018.10.11 An Analysis of Japan's Aging Population: Using Data from "The Web System of Small Area Population Projections for the Whole Japan."

Southern Demographic Association 2018 Annual Meeting. Durham, US. (Inoue, N., Katayama, R.との共同発表)

3. 2018.10.20 「全国小地域別将来人口推計システム」のデータの基本集計. 第27回地理情報システム学会研究発表大会. 首都大学東京. (片山梨奈と井上希との共同発表)
4. 2018.10.20 「全国小地域別将来人口推計システム」の距離帯別推計への応用. 第27回地理情報システム学会研究発表大会. 首都大学東京. (小松真治との共同発表)
5. 2018.10.20 「全国小地域別将来人口推計システム」の標高・傾斜度別推計への応用. 第27回地理情報システム学会研究発表大会. 首都大学東京. (井上希との共同発表)
6. 2018.10.20 「全国小地域別将来人口推計システム」のロジット分析への応用. 第27回地理情報システム学会研究発表大会. 首都大学東京. (井上希との共同発表)
7. 2018.11.3 小地域別将来人口推計からみた日本の高齢化の進展: クラスター分析を用いて. CSIS DAYS 2018. 東京大学柏の葉キャンパス駅前サテライト. (井上希との共同発表)
8. 2018.12.8 東急電鉄沿線における人口変動と少子高齢化の展望—2010~60年—. 2018年度日本人口学会中部地域部会. 南山大学名古屋キャンパス. (小松真治との共同発表)
9. 2018.12.8 関東地方における小地域別慢性腎不全患者数の将来推計 (2015~60年). 2018年度日本人口学会中部地域部会. 南山大学名古屋キャンパス. (片山梨奈との共同発表)
10. 2018.12.9 「全国小地域別将来人口推計システム」のデータを用いた人口密度別推計の試み. 2018年度日本人口学会第1回東日本地域部会. 札幌市立大学サテライトキャンパス.
11. 2019.1.12 浸水想定区域における将来人口推計—高齢化に着目して—. 人口学研究会第611回定例会. 中央大学後楽園キャンパス.
12. 2019.1.28 全国小地域別将来人口推計システムとその応用. 国立社会保障・人口問題研究所「先進事例調査研究・横展開における自治体機能強化支援総合研究」研究会. 国立社会保障・人口問題研究所.

その他

1. 2018.12 書評 単 石川義孝著『流入外国人と日本—人口減少への処方箋—』海青社, 人文地理, 第70巻, 第4号, pp504-505.

# 日置 俊次

所属：青山学院大学文学部・教授

経歴等：[http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf\\_2/](http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf_2/)

## 研究成果の概要

健康長寿を実現するためには、物質だけではなく、心理面の働きの解析と、心理的環境の改善が必須である。

本年度は、「となりのトトロ」をはじめとする宮崎駿のアニメーション作品を分析し、ヒロインの少女と、それを取り巻く老女との対比から、世代間の交流や老いることの意味を考えてきた。少女と老女は連続体として存在するが、その相互理解がお互いの健康長寿に意味を持つという仮説を提出している。

以上のようなテーマのもとに、2018年9月23日(日)、ジェロントロジー研究所の開設記念キックオフシンポジウムで、講演「宮崎駿が描く少女と老女」を行い、壇上でシンポジウムのパネラーを務めた（青山学院大学本多記念国際会議場）。また論文「宮崎駿「となりのトトロ」論——少女と老女という思想——」（「青山スタンダード論集」2019年1月）を発表した。

そのほかには、短歌を詠むことや鑑賞することが病気の回復や健康長寿につながる例を収集し、そのシステムを解析する準備を進めている。

## 学術論文・著書・分担執筆

1. 「岩田正『靴音』再論——重奏する揺れとたくらみ——」（単著論文、「かりん」2018/10）
2. 「宮崎駿「となりのトトロ」論——少女と老女という思想——」（単著論文、「青山スタンダード論集」2019/01）
3. 「夏目漱石と能——素人としての自己劇化——」（単著論文、「紀要」青山学院大学文学部、2019/03）
4. 「井伏鱒二「山椒魚」論——もっともらしい嘘について——」（単著論文、「青山語文」2019/03）

## 講演・学会発表

1. 「宮崎駿が描く少女と老女」青山学院大学、2018年9月23日(日)
2. 「細田守の作品世界」富山市高志の国文学館、2018年12月15日(土)

## 主な社会活動・大学外の委員活動

1. 定期的に歌会を開き、高齢者の短歌創作を指導
2. 短歌結社誌「かりん」編集員として、結社誌の編集・発刊に尽力

## 小菌 康範

所属：青山学院大学法学部・教授・保険管理センター副所長

経歴等：[http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf\\_3/](http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf_3/)

### 研究成果の概要

Gerontologyをおもに医学的側面から概観すべく、まずは情報収集にあたった。なぜ老化が起こるかという基礎医学的側面より、どこまでキュアするかという臨床医学的、あるいは看護・介護の側面により焦点を当てた。外国との比較でみると、欧米と日本では自立が難しくなった高齢者をどう遇するか感覚が異なっており、ケアが重視される欧米に比べて日本ではキュアが重視されている。日本人は自らを地の果てと自覚しており、外から来たものを優れていると受け入れてきた歴史があるため、いわゆる常識が、特に外圧によって、短期間に大きく変容する。余談であるが、その根本には自らの經典すら無くすべてを受け入れる神道の影響も感じられる。鬼畜米英から対米追従に臆面もなく180度転換し、最近では親韓から嫌韓に大きく世論が変容した。高齢者医療も同様であり、常識が大きく変化している。昭和30年代までは在宅看取りであった。寝付いた高齢者は家の離れに寝かせて、孫が食事を運び、一月二月でひっそりと亡くなっていた。それがあれよあれよという間に病院でのキュアとなった。キュアを追い求めた結果、チューブや胃瘻や耐性菌といった過剰医療、褥瘡や抑制といった社会的入院、さらには経済的負担の増大が問題となり、近年は急速に施設介護にかじを切りつつある。こうした医学的側面から見たGerontologyの概説を2019年度健康医学のカリキュラムに取り入れる予定である。さらに今後は、際限なくキュアを追い続けるのではなく、ある時点からはケアを充実させる・・・そのある時点とはいつか。未病、ロコモやフレイルあるいはサルコペニアの予防、認知能維持、誤嚥予防、転倒予防、失禁対策、褥瘡予防といったGeriatric Syndromeの予防。こうした医学的側面から見たGerontologyの各論についてもカリキュラムに取り入れていく予定である。

### シンポジウム・講演・研究集会等

1. 第115回日本内科学会、第60回日本老年医学会、第9回日本プライマリ・ケア連合学会、第46回日本救急医学会、第47回日本総合健診医学会に参加した。

### その他

1. 日本医師会認定健康スポーツ医と日本臨床栄養学会認定専門医を更新した。
2. 日本臨床栄養学会指導医を委嘱された。

## 塩澤 友規

所属：青山学院大学経営学部・教授

経歴等：<https://raweb1.jm.aoyama.ac.jp/aguhp/KgApp?kyoinId=yymiigsodggy>

### 研究成果の概要

高齢者リハビリテーションに有用なバイオフィードバックシステムを用いた筋肉トレーニングに関する論文を発表した。内容を以下に記す。筋電図は、測定電極の位置とプローブの形状およびサイズの影響を受ける。このため、筋電図の評価は巨視的かつ主観的であり、筋肉の異常または回復の程度を定量化するためのアルゴリズムは未だ考案されていない。本研究では、排尿障害患者と転倒傾向のある患者のバイオフィードバックトレーニング中に会陰筋から得られた平均修正表面筋電図データを評価するための測定パラメータを開発した。この新しいパラメータの評価は、筋電図信号を使用する統計的手法として役立つことを目的とした。この新しいセンサー出力信号評価システムを使用して、バイオフィードバックトレーニングの効果を評価した。本研究では、センサー出力信号評価システムの組み合わせを開発し、それらの有用な用途を明らかにした。

この他、日本認知症学会をはじめ、下記その他の欄に列挙する、老年医学に関連する各種学会の役員等を務めた。

### 関連学術論文・著書等

1. Shiozawa T, Miyao M, Nakayama M, Takada H. (2019) “Evaluation in Biofeedback Training System on Displays,” in Takada H, Miyao M and Fateh S (eds.), *Stereopsis and Hygiene, Current Topics in Environmental Health and Preventive Medicine*, Singapore: Springer Nature, pp.123-135.

### シンポジウム・講演・研究集会等

1. 青山学院大学ジェロントロジー研究所主催の講演会（諏訪中央病院名誉院長，鎌田實先生）の司会を担当した。

### その他

1. 日本認知症学会専門医認定小委員会症例報告書審査委員
2. 同学会認定認知症専門医・指導医
3. 日本神経学会認定神経内科専門医・指導医
4. 日本内科学会認定総合内科専門医

5. 日本公衆衛生学会認定公衆衛生専門家
6. 社会医学系専門医協会認定社会医学系専門医
7. 日本栓子検出と治療学会理事
8. 日本時間生物学会評議員
9. 日本衛生学会英文誌 **Environmental Health and Preventive Medicine** 査読委員

# 竹下 啓

所属：東海大学医学部・教授

経歴等：[http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf\\_5/](http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf_5/)

## 研究成果の概要

高齢者を支える在宅医療は、通院困難な症例に対して訪問診療・看護、薬剤指導、介護、リハビリ、サービス調整等の多施設多職種協働によるチーム医療である。しかしながら、時に、立場や職種等を含めた様々な価値観から意見の対立や問題が生じることがある。そこで、地域の多職種に臨床倫理の考え方を広め、種々の問題解決を模索する臨床倫理カンファレンスの構築を試みた。2018年6月から2019年2月までに、ミニレクチャー後の事例検討と講演会を含め13回のカンファレンスを開催した。各カンファレンスとも参加者は20人以上で、多施設から多職種が参加した。レクチャー内容は、臨床倫理の基本（臨床倫理4原則等）、Advance Care Planning 等であった。事例検討は訪問診療医師や看護師からのがん終末期治療の患者家族の意見対立や介護ケアに対する家族と看護師の意見対立、病院で入院担当看護師からの訪問診療導入困難事例提示等であった。続いてグループディスカッション後に臨床倫理的問題解決の可能性を発表して意見交換を行った。学外からの演者を迎えての講演会の内容は、「神経難病の生命維持の中止・差し控え」（国際医療福祉大学・荻野教授）、「裁判例から学ぶ医療倫理」（中京大学法科大学院・稲葉教授）「多職種で話し合える医療・ケアの現場をどうするか」（がん研有明病院・濱口副看護部長）であり、活発な質疑応答と意見交換がなされた。そのほか個別のケース倫理コンサルテーションを数例受け付けた。

## 著書・分担執筆（共著）

1. 事例から学ぶ医療安全 東京医学社 2018年7月
2. 倫理コンサルテーションハンドブック 医歯薬出版 2019年3月

## 論文

1. 竹下啓 北里大学北里研究所病院における倫理コンサルテーションの経験 生存科学 2018: 28: 153-156
2. 高野朋子、竹下啓 研究責任医師のための臨床研究法の概要 臨床麻酔 2019: 43: 35-43
3. 大貫優子、高橋千果、竹下 啓 がんゲノム医療の倫理 臨床倫理（印刷中）
4. 竹下啓 日本臨床倫理学会年次大会「倫理コンサルテーション」でどのような事例が検討されてきたか -臨床倫理認定士を対象とした倫理コンサルテーション活動調査の提

案- 臨床倫理 (印刷中)

5. 竹下啓 医師の労働環境と医の倫理 生存科学 (印刷中)

#### 書評

1. 「ユマニチュードを語る 市民講座でたどる<それぞれのユマニチュード>の歩み」  
生存科学 2018 : 29 : 127-128

#### 学会講演

1. 竹下啓 「基礎から学ぶ医療倫理の四原則」 第13回日本小児耳鼻咽喉科学会学術講演会 2019年7月13日 横浜
2. 竹下啓 「臨床倫理の基礎」 第50回神奈川県麻酔科医会学術集会 2019年2月16日 横浜

#### シンポジウム

1. 竹下啓 神奈川県湘南西部・県央地域の在宅と介護施設における医療・ケア提供者に対する臨床倫理支援の試み 日本生命倫理学会第30回年次大会公募シンポジウム「在宅医療・ケアにおける臨床倫理支援の実態と今後の課題」 2018年12月9日 京都

#### 社会活動・大学外の委員活動

1. 慶應義塾臨床研究審査委員会委員
2. 慶應義塾大学医学部倫理委員会委員
3. 北里大学医学部・病院医の倫理委員会委員
4. 北里大学白金治験審査委員会委員

# 米山 聡

所属：青山学院大学理工学部・教授

経歴等：[http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf\\_6/](http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf_6/)

## 研究成果の概要

DIC（画像相関法）を種々の問題へ適用した。特に顔面皮膚のひずみ測定においては、高速度カメラを用いて得られた大量の画像データから必要な画像を抽出し、さらにデータ処理を自動的に行う方法を開発した。また、DVC（3次元画像相関法）による3次元変位・ひずみ測定方法を開発し、MR画像を利用して膝軟骨のひずみ測定を可能とした。測定により得られた変位やひずみの値から測定対象の材料特性を逆解析により評価する方法を開発した。

## 学術論文・著書等

1. Yoneyama, S., Ifju, P.G., and Rhode, S.E., Identifying Through-thickness Material Properties of Carbon-fiber-reinforced Plastics Using the Virtual Fields Method Combined with Moiré Interferometry, *Advanced Composite Materials*, 27(1), 1–17 (2018).
2. Mironov, S., Sato, Y.S., Yoneyama, S., Kokawa, H., Fujii, H.T. and Hirano, S., Microstructure and Tensile Behavior of Friction-stir Welded TRIP Steel, *Materials Science and Engineering A*, 717, 26–33 (2018).
3. 有川秀一, 久米悠真, 張 月琳, 米山 聡, 藤本慶久, 撮像シミュレーションによる画像相関法の測定誤差発生メカニズムの解明, *実験力学*, 18(1), 37–41 (2018).
4. Zhang, Y., Yoshino, T., Yoneyama, S., Development of a Non-contact Method for Measuring Viscoelastic Properties of Articular Cartilage, *Advanced Experimental Mechanics*, 3, 197–202 (2018).
5. Zhang, Y., Miyoshi, K., Han, L., Nakadate, H., Yoneyama, S., Koyama, T. and Aomura, S., Injury Risk Evaluation of Brain Concussion in American Football Based on Analysis of Accident Cases, *Advanced Experimental Mechanics*, 3, 203–208 (2018).

## シンポジウム・講演・研究集会等

1. Yamazaki, Y., Koyanagi, J., Yoshimura, A. and Yoneyama, S., Characterization of Triaxial Woven Carbon Fiber Reinforced Polymeric Composites under Uniaxial Tension by Experiments and Numerical Simulation, The 13th International

- Symposium on Advanced Science and Technology in Experimental Mechanics, Japanese Society for Experimental Mechanics, #A09033 (2018).
2. Kanai, Y., Arikawa, S., Yoneyama, S. and Fujimoto, Y., Inverse Analysis of the Coefficient of Thermal Expansion of Dissimilar Materials Using the Virtual Fields Method, The 13th International Symposium on Advanced Science and Technology in Experimental Mechanics, Japanese Society for Experimental Mechanics, #F058070 (2018).
  3. Sakai, K., Zhang, Y., Yoneyama, S., Miyanaki, Y., Nagai, Y. and Igarashi, T., Measurement of Local Strain Distribution and Its Variation Near Eyes During Blink Using Digital Image Correlation, SEM 2018 Annual Conference & Exposition on Experimental and Applied Mechanics, #278 (Greenville, June 4-7, 2018).
  4. Zhang, Y., Yoneyama, S., Nakadate, H., Koyama, T., Matsuda, T. and Aomura, S., Construction of a Concussion Risk Estimation System for Contact Sports, 8th World Congress of Biomechanics, P2220 (Dublin, July 8-12, 2018).
  5. Zhang, Y. and Yoneyama, S., Displacement and Strain Measurement in Three Dimensions of Articular Cartilage by Using MR Images, BSSM 13th International Conference on Advances in Experimental Mechanics (Southampton, August 29-31, 2018).
  6. 堺 香澄, 張 月琳, 米山 聡, 宮崎志洋, 永井裕子, 五十嵐崇訓, 瞬き時の目元のひずみ分布とその時間変動評価方法, 日本非破壊検査協会平成 30 年度秋季講演大会講演概要集, 157-160 (2018).

# 栗原 陽介

所属：青山学院大学理工学部・准教授

経歴等：[http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf\\_7/](http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf_7/)

## 研究成果の概要

高齢者の在宅環境における転倒検知システムとして、マイクロ波ドップラーセンサを天井や、床等に設置することで、リビング、風呂場などでの転倒を自動検出するシステムの開発に取り組んだ。また、介護施設における排泄管理支援のため、膀胱内蓄尿量予測アルゴリズムの構築に取り組んだ。本研究では超音波センサから出力された膀胱内の蓄尿量データにたいし、ガウスプロセスを適用することで蓄尿量の予測分布を推定する。

## 学術論文・著書等

1. Y. Kurihara, T. Kaburagi, S. Kumagai, and T. Matsumoto, "Development of Swallowing-movement-sensing Device and Swallowing-state-estimation System," IEEE Sensors Journal (In press)
2. T. Kaburagi, K. Shiba, S. Kumagai, T. Matsumoto, and Y. Kurihara, "Real-time Fall Detection Using Microwave Doppler Sensor — Computational Cost Reduction Method Based on Genetic Algorithm," IEEE Sensors Letters, (In press)
3. K. Shiba, T. Kaburagi, and Y. Kurihara, "Monitoring System to Detect Fall/Non-Fall Event Utilizing Frequency Feature from a Microwave Doppler Sensor - Validation of Relationship between the Number of Template Datasets and Classification Performance -," Artificial Life and Robotics, vol.23, no.1, pp.152-159 (2018)

## 招待講演

1. 栗原 陽介, “ヘルスケアマーケット展開へ向けた無拘束生体計測技術とその応用,” 技術情報協会, 6月14日(2018)
2. 栗原 陽介, “IoT 時代における新規マーケット展開へ向けた、ものづくりのための既存技術の水平展開,” 平成 30 年度 設備管理学会 春季研究発表大会, 早稲田大学, 6月7日(2018)

## ロペズ ギョーム

所属：青山学院大学理工学部・准教授

経歴等：[http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf\\_8/](http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf_8/)

### 研究成果の概要

高齢者の健康・快適な生活を支える情報技術（IT）として貢献が期待できるセンシング技術、情報処理技術とそれを活用するアプリケーションソフトウェア技術及びデバイス技術の研究開発を行った。特に、個別適合した食習慣支援技術と、温冷環境快適制御技術の応用に向けた発展に取り組んだ。

食習慣支援技術に関して、効果的なリアルタイムフィードバック手法の検証を行い、咀嚼回数および発話量の増加につながる行動変容を引き起こせることを示した。また、ジェロントロジー分野への応用を目指して、自治体との協力による後期高齢者の咀嚼機能評価へ向けた実証実験を開始することで、次の研究課題を絞ることができた。

温冷環境快適制御技術に関して、人間の温冷快適感の生理現象解明と、温冷感の制御デバイス製作と評価を進めてきた。特に個別状態の識別のため、通常的生活環境において混在する多種類のストレス要因（例：暑熱刺激と精神的疲労）をウェアラブル端末から取得可能な整理指標から並列に状態判定できるモデルの構築に成功した。また、そのモデルを統合した頸部装着型ウェアラブル冷暖房端末の開発と評価を行い、より日常生活に応用できるための課題を見出した。

### 学術論文・著書・分担執筆

1. G. Lopez, T. Tokuda, M. Oshima, K. Nkurikiyeyezu, N. Isoyama, and K. Ito, "Development and Evaluation of a Low-Energy Consumption Wearable Wrist Warming Device," *Int. J. Automation Technol.*, Vol.12, No.6, pp. 911-920, 2018.
2. Kizito Nkurikiyeyezu, Yuta Suzuki, Pierre Maret, Guillaume Lopez and Kiyoshi Ito, "Conceptual design of a collective energy-efficient and physiologically-controlled system for thermal comfort delivery in an office environment," *SICE Journal of Control, Measurement, and System Integration*, 11(4):312-20, (7/2018). doi:10.9746/jcmsi.11.312

### 受賞

1. 三井 秀人, 横窪安奈, ロペズ ギョーム: 咀嚼回数向上を促す支援システムに適したフィードバック方法の検討, 第 28 回人間情報学会講演会・オーラルセッション, 最優秀発表賞 (12/2018 受賞)

#### 国際会議プロシーディング

1. Kizito Nkurikiyeyezu, "An efficient thermal comfort delivery in workplaces," in proc. of the 12th Ph.D. Forum on Pervasive Computing and Communication (PerCom 2019), Kyoto, Japan (3/2019).
2. Guillaume Lopez, Shohei Abe, Kengo Hashimoto, Anna Yokokubo, "On-site Personal Sport Skill Improvement Support Using only a Smartwatch," in proc. of the Workshop on Sensing Systems and Applications Using Wrist Worn Smart Devices (WristSense 2019), Kyoto, Japan (3/2019).
3. Kizito Nkurikiyeyezu, Kana Shoji, Anna Yokokubo, Guillaume Lopez, "Thermal Comfort and Stress Recognition in Office Environment," in proc. of the 12th International Joint Conference on Biomedical Engineering Systems and Technologies (HEALTHINF 2019), Prague, Czech Republic (2/2019).
4. Guillaume Lopez, Hideto Mitsui, Joe Ohara, Anna Yokokubo, "Effect of Feedback Medium for Real-time Mastication Awareness Increase Using Wearable Sensors," in proc. of the 12th International Joint Conference on Biomedical Engineering Systems and Technologies (HEALTHINF 2019), Prague, Czech Republic (2/2019).
5. Guillaume Lopez, Kazuto Takahashi, Kizito Nkurikiyeyezu, Anna Yokokubo "Development of a Wearable Thermo-Conditioning Device Controlled by Human Factors Based Thermal Comfort Estimation," in Proc. of the 12th France-Japan and 10th Europe-Asia Congress on Mechatronics (Mechatronics), Mie, Japan (9/2018).
6. Kizito Nkurikiyeyezu and Guillaume Lopez, "Toward real-time physiologically-controlled thermal comfort provision in office," in Proc. of the 14th International Conference on Intelligent Environments (IE'18), 168-177, Rome, Italy (6/2018).

#### 講演・学会発表

1. 畠 雅和, Luimula Mika, Chrisna Ravyse, 横窪 安奈, ロペズ ギョーム: 心拍センサを用いた過食防止システムのフィードバック手法の検討, 第 23 回情報処理学会シンポジウム インタラクシオン 2019 (3/2019).
2. 三井秀人, 小原丈, 横窪安奈, ロペズ ギョーム: 骨伝導音を用いたリアルタイム咀嚼・発話判定精度向上手法の提案, マルチメディア, 分散, 協調とモバイル (DICOMO2018)シンポジウム論文集 (7/2018).
3. 高橋一聡, 近藤匠海, シクリキエイエズ キジト, 横窪安奈, ロペズ ギョーム:

ヒューマンファクターに基づいたウェアラブル冷暖房デバイスの開発, マルチメディア, 分散, 協調とモバイル(DICOMO2018)シンポジウム論文集 (7/2018).

4. Kizito Nkurikiyeyezu, Guillaume Lopez, "Méthode adaptative et personnalisée d'optimisation d'énergie et du confort thermique en temps réel," 3es Rencontres des Chercheurs Francophones du Kansai (RCFK 2018), Kyoto (6/2018).

#### 主な社会活動・大学外の委員活動

1. 人間情報学会 理事幹事

#### その他

1. 【新聞】2018/12/4 産経新聞朝刊 全国版生活面に掲載  
「青学大研究 スマホで手軽に肥満予防 食事「かむ」回数を即時告知」  
<https://www.sankei.com/life/news/181204/lif1812040002-n1.html>
2. 【新聞】2018/7/2 河合塾「ゼミ・研究室ナビ」に搭載  
「身につけたデバイスから収集した情報で人と社会が快適に調和する環境を模索する」

# 佐野 智子

所属：城西国際大学福祉総合学部・准教授

経歴等：[http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf\\_9/](http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf_9/)

## 研究成果の概要

個人研究では、加齢性難聴を早期発見するための指こすり・指タップ音聴取検査（FRFT 検査）の妥当性を検討した。純音検査との比較により、併存的妥当性と弁別的妥当性を確認でき、FRFT 検査は、軽度以上の難聴を検出可能であった。また、当該検査を用いて、高齢者はセルフチェックが可能かを検討した。65 歳未満では正しく評価できるが、65 歳以上では、セルフチェックは困難であることが示唆された。

科研費研究（基盤研究（C）課題番号：18K10617, 研究分担者）では、デンマークの補聴器メーカーの研究所および街の補聴器店を視察し、補聴研究の最前線と難聴者に対する補聴の実態を調査した。

## 学術論文・著書等

1. 「加齢性難聴の早期発見に向けた指こすり・指タップ音聴取検査の妥当性の検討」（査読あり）  
佐野智子・森田恵子・奥山陽子・伊藤直子・長田久雄 2018年6月  
日本公衆衛生雑誌, 第65巻第6号, P.288~P.299.

## 学会発表

1. 「高齢者の精神的健康と時間的展望との関連ー加齢性難聴を対象としてー」佐野智子・長田久雄  
日本老年社会科学会第60回大会（2018年6月10日）
2. 「指こすり・指タップ音聴取検査の他者評価と自己評価との関連」佐野智子・長田久雄  
日本公衆衛生学会第77回大会（2018年10月26日）

## 公開講座等

1. 「加齢性難聴のセルフチェック」日本医療科学大学 2018年度公開講座(2018年6月30日)「加齢性難聴のセルフチェック」と題し講演した。加齢性難聴について解説し、自身が開発したスクリーニング検査「指こすり・指タップ音聴取検査」を紹介し、早期発見と早期治療の重要性を訴えた。200名を超える近隣の高齢者が来場

した。講座後のアンケートでは、非常に高い評価を得た。

2. 「ストレスマネジメント」城西国際大学 2018 年度シニアウェルネス大学講座  
(2018 年 12 月 8 日)

ストレッサーとストレス反応の定義を述べ、ストレスモデルとストレスマネジメントについて概説した。認知行動療法の基本モデルとアサーティブな自己表現、コーピングレパートリーについて、演習を交えながら解説した。参加者から高い評価を得た。

## 長田 久雄

所属：桜美林大学大学院老年学研究科・教授・副学長

経歴等：[http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf\\_10/](http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf_10/)

### 著書

1. 長田久雄・佐野智子・森田恵子・松田修編著、高齢者の感覚の特徴、最新老年心理学、ワールドプランニング；東京、2018.7.10

### 論文

1. 小林由美子・杉澤秀博・刈谷亮太・長田久雄 地域在住高齢者における健康関連の逆境に資するレジリエンスの構成概念 老年社会科学 第 40 巻第 1 号、32-41. 2018.4.20
2. 佐野智子・森田恵子・奥山陽子・伊藤直子・長田久雄、加齢性難聴の早期発見に向けた指こすり・指タップ音聴取検査の妥当性の検討、日本公衆衛生雑誌、第 65 巻第 6 号、288-299、2018.6.15
3. 小野真由子・長田久雄、ソーシャルサポートと死に対する態度の関連：自尊感情の媒介効果の検討、応用老年学、第 12 巻第 1 号、21-31 2018.8.31

### 学会発表

1. 関野明子・長田久雄、家族介護者支援に向けた理論モデルの構築ーストレスコーピングに着目してー、日本老年社会学会第 60 回大会、東京・日本教育会館、2018.6.9
2. 上野佳代・菊池和美・長田久雄・澤岡詩野・中村桃美 高齢者はその居場所にどのような意味を持っているのかーまちの暮らしの保健室における保険医療福祉専門職へのインタビュー調査からー、日本老年社会学会第 60 回大会、東京・日本教育会館、2018.6.9
3. 佐野智子・長田久雄 高齢者の精神的健康と時間的展望との関連ー加齢性難聴を対象としてー、日本老年社会学会第 60 回大会、東京・日本教育会館、2018.6.10
4. 森下久美・長田久雄 大学生の認知症の人への態度と知識の関連ー非医療福祉系の学生に着目してー、日本老年社会学会第 60 回大会、東京・日本教育会館、2018.6.10
5. Brennan,S., Osada , H. Dementia Care: Long-Term Care Facilities' Environmental Design and Quality-of-Life of Older Adults、29th International Nursing Research Congress、Melbourne、Australia、2018.7.22

6. 森下久美・矢吹知之・長田久雄・関野明子 老老介護における「空白の期間」の実態：認知症介護における検討、第 13 回日本応用老年学会大会、東京都健康長寿医療研究センター、2018.10.21
7. 関野明子・長田久雄・森下久美 夫介護者が語る妻への「殺意」についての事例比較：老老介護の二つの事例から、第 13 回日本応用老年学会大会、東京都健康長寿医療研究センター、2018.10.21
8. 萩原真由美・長田久雄・柴田博 デスカフェ：「死」を語り合うことの意味、第 13 回日本応用老年学会大会、東京都健康長寿医療研究センター、2018.10.21
9. 小林由美子・杉澤秀博・刈谷亮太・長田久雄・殿原慶三 高齢期の健康関連のレジリエンスの構成概念：文献レビューと質的研究から、第 13 回日本応用老年学会大会、東京都健康長寿医療研究センター、2018.10.21
10. ブラナン野口純代・渡辺修一郎・橋本由美子・長田久雄 ユニット型特養における施設環境と認知症高齢者の生活の質との関連、第 13 回日本応用老年学会大会、東京都健康長寿医療研究センター、2018.10.21

# 木村 康一

所属：山野美容芸術短期大学・教授・副学長

経歴等：[http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf\\_11/](http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf_11/)

## 研究成果の概要

いつまでも美しく健やかに生きるためには、腕の挙上が日常的に求められるシャンプーを自力で続けることや、歩き続けることが大切な要素となるという視点から、それぞれをサポートする体操を考案し、その効果を測定する研究を行っている。またハチミツの効果を美容産業に応用するための基礎研究を継続して行っている。一方で、啓発活動として「美しく生きる」ことを主眼にした講演を実施するとともに、美しく生きることを体系的にサポートするための学問「美齢学」の構築に向けた研究に着手したところである。

## シンポジウム・講演・研究集会等

1. 木村康一、美齢講座①前期「健やかに美しく生きる –おしゃれ身だしなみを意識して-」、八王子市いちょう塾講演、2018年6月
2. 木村康一、美齢講座①後期「健やかに美しく生きる –おしゃれ身だしなみを意識して-」、八王子市いちょう塾講演、2018年9月
3. 木村康一、「現代社会ニーズへの美容の貢献」、第18回日本美容福祉学会学術集会シンポジウム座長、2018年10月
4. 富田知子、木村康一、他「考案シャンプー体操が手首関節柔軟性に及ぼす影響に関する研究」、第77回日本公衆衛生学会、2018年10月
5. 生山匡、木村康一、他「高齢者サロンでの『考案シャンプー体操』の紹介とその成果」、第18回日本美容福祉学会学術集会、2018年10月
6. 山本恵子、木村康一、他「官能試験法を用いたハチミツによるにおい抑制効果の判定」、第18回日本美容福祉学会学術集会、2018年10月
7. 木村康一、「おしゃれ身だしなみと福祉」、所沢市高齢者大学講演、2018年11月

## その他

1. 木村康一、美齢講座①木村康一、「美しく歩き続けるための長生き体操」考案、2018年12月
2. 木村康一、「新しい学び・美容技術の習得中心から美しく生きる力を育む大学へ―山野美容芸術短期大学」、Career Guidance 2019 pp40-41、リクルート、2018年3月

# 井上 希

所属：国立社会保障・人口問題研究所・研究員

経歴等：[http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf\\_12/](http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf_12/)

## 研究成果の概要

2018年7月よりジェロントロジー研究所のメンバーとして活動を開始させていただきました。研究所での主な活動成果はホームページの制作・管理、研究所の紹介動画の制作・管理、共同研究プロジェクトの立ち上げ、老年学に関連する論文執筆と研究発表です。とりわけ共同研究プロジェクトでは城西国際大学の佐野先生と自治体職員向けの統計等の研修セミナーを2019年度実施いたします。

## 学術論文・著書等

1. “GIS Analysis of Nursing Facilities in the Tokyo Metropolitan Area, 2010-2060, ” 『青山経済論集』, 第70巻第1号, 青山学院大学経済学会, pp.1-10.
2. 「GISを用いた人口統計指標の地図化—渋谷区における昼夜間人口比率の事例—」, 『青山経済論集』, 第70巻第1号, 青山学院大学経済学会, pp.51-76.
3. 「ビジュアルプログラミング言語によるGIS操作の自動化について」, 『青山経済論集』, 第70巻第2号, 青山学院大学経済学会, pp.179-212.
4. 「「全国小地域別将来人口推計システム」のデータからみる日本の人口減少と少子高齢化」, 『ESTRELA』, 第295号, 公益財団法人統計情報研究開発センター, pp.2-7.
5. 「「全国省地域別将来人口推計システム」のデータからみる標高・傾斜度別推計」, 『ESTRELA』, 第295号, 公益財団法人統計情報研究開発センター, pp.14-19.
6. “An examination of losses in energy savings after the Japanese Top Runner Program? , ” *Energy Policy*, Elsevier, vol.124, pp.312-319.

## シンポジウム・講演・研究集会等：

1. 「仮説検定による組み合わせ分析法—修正ウィーバー法との比較研究—」, 日本人口学会, 2018年6月.
2. 「全国小地域別将来人口推計システムを用いた小地域の無居住化リスクの検証」, 地理空間学会, 2018年6月.
3. “An Analysis of Japan’s Aging Population: Using Data from “The Web System of Small Area Population Projections for the Whole Japan” , ” SOUTHERN DEMOGRAPHIC ASSOCIATION 2018ANNUAL MEETINGCSIS, October 2018.
4. 「「全国小地域別将来人口推計システム」のロジット分析への応用」, 第27回地理情報

システム学会, 2018年10月.

5. 「小地域別将来人口推計からみた日本の高齢化の進展：クラスター分析を用いて」,  
CSISDAYS2018 全国共同利用研究発表大会, 2018年10月

## 朝倉 匠子

所属：NPO 法人アンチエンジリングネットワーク・理事

経歴等：[http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf\\_13/](http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf_13/)

### 研究成果の概要

2018 年 12 月より客員研究員。研究所が主催した 2 回の講演会、ホームページ制作に参加。三木学長、平田所長と個別にお会いし、今後の方向性を確認した。2019 年に私を中心としたグループ研究テーマ「Urban Gerontology」を立案し、スタートに向けた下準備を行った。